



上／東無田から櫛島へと向かう辺りで眺めた飯田山
左／東無田集落の中心部となる東無田八幡宮

わがまち散歩

ちよつとそいしぎで

道すがら、心通わす人がいる
古里の温もりに包まれながら
あちらこちら、わがまち散歩

少しずつ空が高くなり、暦の上では秋ですが、まだまだ残暑厳しい頃。たっぷりと水分を補給しながらの今回のわがまち散歩は、東無田・櫛島地区を歩いてみました。

秋津から移住し 集落を形成

東無田八幡宮を中心に集落が広がる東無田地区。町史をひもとくと、「東無田の住民は、自分たちの祖先は秋津地区から移住してきたと伝承している」と記されています。そういえば、熊本市東区秋津にある「中無田熊野座神社」などは地名が似ています。江時代をさかのぼること江



子ども会でそうめん流しを楽しむ子どもたち (提供写真)



8月には子ども会で釣りや水遊びも楽しみました (提供写真)

戸時代。加藤清正は領内の治水工事に尽力しました。「秋津地区にあったと思われる東無田地域は洪水の常襲地帯だったようで、清正の治水工事と新田造成によって、現在の場所に人々が移り住んだと考えられます」と町生涯学習課の堤英介さん。また東無田八幡宮の勧請が慶長18(1613)年と伝えられており、秋津地区からの移住に伴い神社が建立されたと推察されます。

活発な子ども会の活動

東無田地区では子ども会の活動が盛んです。田植え、稲刈り、餅

大人たちがお化けに変装。参加者たちもずいぶん盛り上がりたようです (提供写真)



結婚して東無田地区に暮らす二人。左から森川さんと田崎さん



つきなど一年を通じて地域の人たちの触れ合いを大切にしています。過日、東無田八幡宮でそうめん流しや肝試しも行われました。肝試しの当日は、昼間に親と子どもたちが道路の下調べをし、一番の夜には大人たちがおばけに変装し、いろんな場所で子どもたちを驚かせたそうです。

「地元消防団の企画で、災害時に夜道を歩いて避難しなければならぬ場合に備え、子どもたちに地理を把握させるといふものです。親も子ども楽しく学べるイベントになりました」と話すのは小学生の娘さんがいる森川志保さんです。

熊本地震後に夫の実家がある東無田に移住した田崎幸さんは「皆